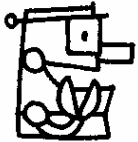


小 / 理科 / 6年 / 地球と宇宙 /
大地のしくみ / 理解シート

地表の小石に丸いのが多いのは、なぜなの



人が住む平地が氷のはたらきでできたためと、道路をつくる
とき、川原のじゃりなどが運ばれてくることが多いからさ。

平地に住む人間のまわりには、丸い石が多い

今、たくさんの人間が住む都市が広がっている平野（さんかくす三角州や、せんじょうち扇状地）は、ほとんど、川のはたらきでできたものです。

雨水が、山から海に下るとき、大量の岩やどしゃを運んできます。それが低い平地に出たとき、流れがゆるやかになるため、どしゃなどが川底にたまり、長い間に広い平野ができていったのです。

川水で運ばれたどしゃの中の小石は、こすられけずられて、角が丸くなっています。だから、平地でよく見かける小石は、丸いものが多いといえます。

また、道路をつくる時、川原などからじゃりを運んでつくることが多く、コンクリートの建物や橋などの建設でも、じゃりがたくさん使われます。

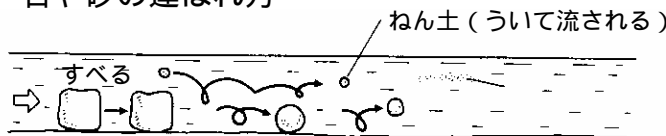
そのため、丸い石が身近に多いのでしょう。

角がとがった石は、川の上流か、ふん火した火山の近くで見られる

川を上流に登っていくと、ごつごつした岩が多くなります。岩ぺきやきょだい巨大な岩が割れたものなのです。火山のふん火などで飛び散った岩石も、角がとがっています。ふん火のときに、よう岩が割れて飛び散ったものだからです。

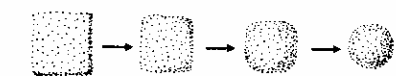
だから、角がとがった石は、山などに行くか、地面の下にうもれているのをほり出すかしなければ、地表ではあまり見られません。

石や砂の運ばれ方



砂（すな）や小石は、水中をとびはねながら流される

40km 流されたときの石の変化



もとの石 2km 10km 40km